

増共に千石に至つた。大坂の役に御小將番頭を勤め、二ノ丸で首一つを得た。寛文五年歿。

アラクラダケ 荒倉岳 能美郡杖の部落の東北に近い山。高さ八三一米。山體第三紀層。

アラコシユウ 荒子衆 前田利家の尾張荒子城を領した頃、その從臣に山森伊織・奥村治石衛門・吉田孫兵衛・姊崎四郎左衛門・三輪作藏・山森久次(後改恒川氏)・金岩興次があつて、後に之を荒子七人衆といひ、又村井又兵衛・原田又右衛門・久田孫右衛門・篠田孫助・富田與六郎・河原兵庫・奥村孫助・奥村彌左衛門・半田半兵衛・野崎源左衛門・岡本助兵衛・高畠茂助・橋爪縫殿助・小塚仁左衛門・千秋新助があつて、これも後に荒子衆といはれる。當時利家の知行二千四百五十貫で、利家夜話に、『前田藏人(利久)殿二千貫の御家、今程は五千石許の御知行之由、大納言被仰。』とあるによつて算すれば、六千石餘に當るから、二十人の從士も尙多きに過ぎた位であらう。

アラコジヨウ 荒子城 尾張愛知郡に在つて、前田利春の築く所。子利久・利家相繼いで之を領した。尾張古城記に據れば、櫓の内東西三十八間、南北二十八間、四方一重堀と記されて居る。

アラゴゼンシヤ 荒御前社 荒御前社は白山比咩神社の境内にあつた別社で、白山記の白山本宮の條に、『本地ビサ門、荒御前』と見える。この社の神靈は、大永七年の託宣記に、『荒御前、建部大夫却初、人歟。不知出世、不知壽算之終』とあつて、白山比咩神社の神主建部氏の祖先であらうとしてゐる。今は日本武尊とし、明治十年社殿朽敗したから、假に之を本社と相殿とした。

アラシ 嵐 能美郡輕海郷に屬する部落。

アラシコ 荒子 ↓コモノ 小者。

アラタ 荒田 鳳至郡市ノ瀬の内の小字。

アラタニ 荒谷 江沼郡奥山方に屬する部落。笈懸紀聞に、この村に岩の罅隙から塩の出る所があり、同村の奥に梅雨の比岩の罅隙に蛇の出ること、四十九院のつゆ蛇に同じ所があるとある。又雲根志には、江沼郡荒谷から自然銅が出ると記されてゐる。

アラタニ 荒谷 能美郡山内庄に屬する部落。明治中に至り東荒谷と改めた。

アラタニ 荒谷 能美郡粟津郷に屬する部落。明治中に至り西荒谷と改めた。

アラタニ 荒谷 能美郡白山下に屬する部落。

アラタニイシ 荒谷石 江沼郡荒谷より産し、分解した石英粗面岩の岩脈をなすものである。九谷燒の原料に供せられる。

アラタメガタアシガル 改方足輕 盜賊四方奉行の配下で、日々市中を巡り、非違を檢察し、犯罪者を逮捕するものであつた。

アラフゴ 新巻 一冊。金澤の俳人大常の著。序文に、とらの正月伯介とあるが、文政元年であらう。連句と發句を集めたものに過ぎぬが、月日の事は、草木のながめは、鳥むしのなさは、とりまぜておもへば、の四種に句を分類してゐるのがその趣向である。京菊屋平兵衛板。

アラマチ 荒町 金澤の町名。昔犀川口に荒町があつたため、この方を木ノ新保荒町と呼んだといふ。寛文十年の九十歳者書上帳に、木ノ新保新町と見え、此の外元祿・享保頃の記録にも木ノ新保新町と見える。荒町は新

町の意で、新に町立したによる名であらう。

アラミコジマ 荒御子島 鳳至郡の海上にある七つ島の一つ。享保の書上に、『あらみこ島、高さ四十間程、長さ百二十間程、幅三十五間程。島之内よもぎ、かや生申候。りう島より海上二十町程。』と見える。

アラミサキシヤ 荒御前社 ↓アラゴゼンシヤ 荒御前社。

アラヤ 荒屋 江沼郡能美境に屬する部落。

アラヤ 荒屋 能美郡德橋郷に屬する部落。

アラヤ 荒屋 能美郡德久のうちの小字。

アラヤ 荒屋 石川郡林郷にある部落。官地論に、槻橋近江守は八歳の時より富樫政親の近習に召使はれ、荒屋村を給はつたと記されて居る。天正十一年四月豊臣秀吉の制札に石川郡新や村とあるのも是であらう。

アラヤ 荒屋 河北郡井上庄に屬する部落で、竹橋の西に近い。源平盛衰記壽永二年に、『加賀國井家・津播多・荒井云々まで連たり。』とあつて、こゝにいふ荒井は荒屋だらう。明治中に至り東荒屋と改めた。

アラヤ 荒屋 河北郡井上庄に屬する部落で、河北潟の西岸に在る。源平盛衰記壽永二年の條に、平軍荒山に陣したとあるは、この荒屋の誤らしい。明治中に至り西荒屋と改めた。

アラヤ 荒屋 河北郡井上庄に屬する部落で、金市新保に近い。明治中に至つて新保荒屋と改めた。

アラヤ 荒屋 羽咋郡子浦のうちの小字。

アラヤ 荒屋 羽咋郡能野方郷に屬する部落。

アラヤ 荒屋 鳳至郡本郷に屬する部落。長家家譜に、『信連八代孫遠江守正連。初住能州荒屋。後移于穴水城。』とある。

アラヤ 新屋 鹿島郡高田保に屬する部落。

アラヤ 阿羅屋 一冊。天明三年堀麥水遠逝の際、及びその一周忌の追悼俳句を、門下垂菊洞八水の編輯したもので、天明戊申秋八月江沼竹隱主人(八水)の序文、青素堂物赤の祭文、著者八水の用辭等がある。その中物赤の文によつて、麥水の忌日が十月十四日であり、享年六十六であつたことが知られる。本書の外題は、麥水の『出迎うてもつけの新亭初しぐれ』から採つたものである。寛政元年十月大坂河内屋茂兵衛・京菊舎太兵衛の兩板である。

アラヤカシハノ 荒屋相野 石川郡山島郷に屬する部落。

アラヤガハ 荒屋川 ↓カクミガハ 神代川。

アラヤシキ 荒屋敷 加賀藩の老臣長氏の家士の居住した地域で、石川郡廣岡に在り、或は新家中とも呼んだ。寛文十一年長氏は能登鹿島半郡の領地を召上げられたので、家士等悉く金澤に移住することになり、従來の下屋敷が狹隘を感じるに至つた爲、南廣岡の村地を請地としてそこに居住させたものである。故に延寶の地圖には長九郎左衛門請地となつてゐる。明治の後金澤に屬せしめ、大隅町と改めた。

アラヤノサプロサエモン 荒屋の三郎左衛門 鳳至郡荒屋村の百姓であつた。前田利家